

平成29年9月19日

南大隅町長 森田 俊彦 様

南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計

プロポーザル審査委員会

委員長 友清 貴和



南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計プロポーザルについて、本委員会は2回の審査を行い、下記のとおり決定しましたので報告いたします。

記

- 1 第一次審査対象者数： 5者
- 2 第二次審査対象者数： 3者
- 3 審査結果
 - (1) 最優秀提案者
株式会社畠中設計
 - (2) 優秀提案者（次点）
株式会社東条設計
- 4 審査経過及び講評： 別紙のとおり

■ 南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計プロポーザル審査委員会

区分	氏名	所属
委員長	友清 貴和	鹿児島大学名誉教授
副委員長	根本 修平	福山市立大学都市経営学部都市経営学科講師
委員	南園 洋生	南大隅町社会福祉協議会副会長
委員	湯田 義光	南大隅町自治会長連絡協議会会長
委員	上橋 広行	鹿児島県土木部建築技監
委員	白川 順二	南大隅町副町長
委員	相羽 康德	南大隅町危機管理監兼総務課長
委員	堂地 彰	南大隅町建設課土木係長

「南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計プロポーザル」審査結果について

1. 審査経過

南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計プロポーザル審査委員会は、第一次審査を平成29年9月10日(日)に南大隅町役場大会議室で、第二次審査を平成29年9月18日(月)に南大隅町役場議場及び大会議室で開催した。

2. 第一次審査

審査に先立ち、本プロポーザルは指名型で実施されているため、設計者数などの組織体制や設計実績で評価はしないこと、また、第一次審査での選定を2者とするため次点以上が確定してしまうため、3者(甲乙付けがたい場合は4者)を第二次審査の対象として選定すること、第一次審査は第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)の対象者を選定することが目的であるため、提案内容の順位には言及しないことを確認した。

次に、事務局より「南大隅町本庁舎建設基本計画・実施設計策定業務委託指名型簡易プロポーザル実施要領」(以下、「実施要領」という。)等に規定される失格要件に該当する提案者はなかったことの報告を受け承した。

審査では、実施要領に規定された「課題」と「技術提案及び業務の実施方針」を、委員会として改めて「ゾーニング・デザイン」、「機能性」、「環境対策」、「維持管理」、「その他」の5テーマに分類し、これらについてチェックを行った後、テーマごとの重みを勘案しつつ総合的に判断して、提案された5者の中から3者(②・③・④)を第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)の対象として選定した。なお、情報漏洩防止を考慮し、第二次審査を実施していない段階での各提案に対する具体的なコメントの公表は差し控えることとした。

なお、①及び⑤の提案者については、下記の評価が挙げられ、最終的に第二次審査の対象から外すこととなった。

- ①： 手堅くまとめ上げ、全体的にそつが無い。保健センターとの関係に積極的な提案が欲しい。北側に出入口を設けているが、接道が狭いため交通事故が心配である。庁舎の北と南のゾーンでスパンを飛ばしており、RC造を前提にしたものか疑問が残る。
- ⑤： 要求事項の内容・順番を忠実に守っている。窓口・待合スペースが狭く、執務室は奥行きが深くて暗くなりがち。人工地盤の提案が予算の範囲内を超える可能性がある。浸水対策を考えると、地階への電算室・サーバー室の配置には疑問が生じる。

3. 第二次審査

第二次審査は冒頭に、議場において傍聴者を加えた中で、1者あたり15分のプレゼンテーションと15分のヒアリングを行った。ヒアリングでは各委員から、多目的ホールの配置に対する考え方とアプローチ、工事期間中の搬入動線と仮設計画、完成後の敷地全体に対するアプローチ計画、庁舎の耐震性に対する考え方などについて質問が出された。プレゼンテーション及びヒアリング終了後、会場を大会議室に移し、非公開で最終審査を行った。

最終審査では、まず、庁舎建築計画の大前提の要素として、「計画予定地全体の利用計画の観点から、L字型の配置と集約型の配置ではどちらがベターか」、「多目的ホールと窓口機能との位置関係

から検討した場合、多目的ホールは1階と3階ではどちらが利用しやすいか」などの観点から、3者の技術提案書とヒアリングの結果を踏まえて協議を行った。次に、既存施設との関係性を重視する配置計画の中でも、保健センターとの関係について評価の高かった②と④の2者に絞り込んだ。

さらに、多目的ホールと窓口機能との位置関係の優先順位について各委員が意見交換を行った。多目的ホールは津波等の災害発生時における避難所利用も考慮すると3階への配置が望ましい、町民が頻繁に利用する窓口機能は1階にまとまっていることが望ましい、という意見に集約された。最終的に、②を最優秀提案に選定し、次点に④を選定した。

個別講評

【最優秀提案：株式会社畠中設計】

- ②： 保健センターとの関係から見ると、雨に濡れず往来が容易。倉庫・車庫の位置や検診車スペースの提案も当を得ている。1階に町民の利用頻度の高い窓口が多く設けられ、かつワンフロアに本部機能（町長室、副町長室、総務課、防災無線室など）を集約しているなど、庁舎機能の配置が的確である。多目的ホールの利用の提案が丁寧で、議場の利用区分も分かりやすい。庁舎から公用車駐車場が遠く、災害時の機動性確保に欠ける。シンボルタワーは今の時代に合うか疑問である。

【優秀提案（次点）：株式会社東条設計】

- ④： 提案②と同様、敷地の使い方が上手で、保健センターとの繋がりも評価できる。1階ロビーはベンチなどを配置して居心地のいい空間となっている。ただし、ロビー（風の広場）は庁舎全体に比べ占める割合が多すぎ、バランスを欠いている。ダブルスキンの提案は費用対効果の面で本当に機能するという前提での提案であるのか？階段室を利用したエコボイドの機能がよく分からない。コアとなる階段・トイレの採光もどれだけ確保できるか疑問を覚える。
- ③： サンイチ広場（提案者の造語）の提案や観光協会を1階に配置した発想など、住民参加型による町づくり・町おこしに対する情熱が感じられる。機能が各フロアで分離され、小規模庁舎の提案としては問題がある。災害対策が建替の目玉であり、現地建替であるにも関わらず、耐震に対しても建替手順に対しても記述がない。プレゼンテーション時に新たな図版等を提示するのは避けて欲しかった。